

令和4年度第1回 京都府独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会
近畿職業能力開発大学校京都校部会 開催概要

1 開催日時

令和4年6月30日(木) 11:00~12:30

2 開催場所

京都職業能力開発短期大学校2号館2階会議室（舞鶴市上安1922番地）

3 主な議題

- (1) 令和3年度の業務実施状況について
- (2) 令和4年度の業務計画及び業務進捗状況について



4 議事経過

資料に沿って、事務局から説明が行われた後、意見交換が行われました。各委員からの主な意見は以下の通りです。

- 現在、製造の現場では物価高の影響を受け製造原価が上がり厳しい中ではあるが、コロナ禍での人材不足も顕著に表れており、非常に厳しい状況にある。
企業見学等も受け入れているので、京都校とも是非協力していきたい。
- コロナ禍において、定員を確保されているという事には敬意を表したい。デジタルサポートシステム科を新設されたのは、時代の流れに対応した活動をされていて見習いたい。
- 過去には定員割れの状況が何年も続いていたが、ここ数年定員が充足している。どのような理由で入校者が増えたかは分からないが今後も充足が確約されるものではなく変動があるので、増えたからといって気を抜かず、より一層入校に対する取り組みをお願いしたい。
- 定員数、就職率及び進学率も高水準で達成されているが、こうした教育機関では知名度を上げ、ものづくりの魅力を伝えて、いかにして入校してもらうかが課題だと考えている。
- 多くの学生が就職されているが、定着率を上げて欲しいと思う。
また、ハローワークでは国の施策を受けて、オンラインで求人の受理や仕事探しができるようになるなど若い層に向けての環境の整備は進んでいるが、大人の世代がITには疎く、うまく使いこなせていない。
社会全体としてデジタル化が必要だという事を再認識しなくてはいけない。
- 建築や土木といった、これまでDXとは無縁だった分野でリテラシーを持った人材が必

要になってくる。今までとは違い、舞鶴市のような地方都市でもITを活用する技術者を必要とする流れが来ていると考えられ、人材を供給していただく京都校の役割は大きくなっている。

事業者のDXに対する関心や、ITが苦手な経営者の方の背中を押せるようなセミナーの開催等も併せてお願いしたい。

- 新設されたデジタルサポートシステム科の応募倍率が1.2倍を切り、1.07倍となっている点について、令和5年度以降が心配であり、危惧している。
一方で100%の就職・進学率を維持していることは評価できるが、定着率の部分で、職場とのミスマッチや労働条件等を理由に入社後3年以内に辞めてしまうという話も有るのは非常に残念なことである。職場環境の改善や、舞鶴市の中で人材を大切に育てていくことを考えなくてはならない。
- 障害のある方の一般就労した後の定着率は少し低い傾向にある。そのため障害を持った方でも継続して働けるよう指導、支援をする必要があると感じる。
- ものづくり関係は厳しい人材不足が続いているが、働き方改革等の中で、これまでのイメージとは違い、女性にも働きやすい職場環境へ改革が進んでいるという情報を共に発信していき、人材不足解決で貴校と協力することができればと考えている。

近畿職業能力開発大学校京都校部会委員名簿

(敬称略)

氏名	所属及び役職名
鎌部 正信	京都府立福知山高等技術専門校 校長
水口 一也	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 事務局長
西山 隆成	舞鶴商工会議所 専務理事
山口 靖弘	京都府中小企業団体中央会 理事・事務局長
坂根 貴巳	丹後機械工業協同組合 専務理事兼事務局長
荒賀 誠	一般社団法人綾部工業研修所 理事長 日東精工株式会社 代表取締役専務執行役員
田中 政旭	舞鶴工業集積協議会 会長
森川 浩行	京都府商工労働観光部人材育成課 課長
小山 祐次	舞鶴公共職業安定所 所長
山下 美晴 《座長》	舞鶴市産業振興部 部長